

図書館を知りつくし、使いつくす！

このチラシを手にとっているあなたは、きっと何度か図書館をご利用になられている方ですね。でも「パスファインダー」や「レファレンス」って何のことかわかりますか？「蔵書検索」や「相互貸借」なんていうのもなんだか堅苦しくて難しそう・・・だけど、知ればますます利用したくなる「図書館」について調べてみましょう。



1. 図書館ってどんなところ？

★そもそも「図書館」とは、何だろう？ いつ頃から作られ、どんなふうに使われてきたのかを調べるのに便利な資料を集めてみました。

『本と図書館の歴史』 モーリーン・サワ／文 西村書店 2010年12月 (2F:010)

世界最古の図書館を作ったのは、楔^{くさび}型文字を考案したシュメール人！ 人類が5000年以上も前から、身のまわりの事柄を記録し、保管してきた歴史を、挿絵と易しい言葉で説明してあります。

『図書館のすべてがわかる本 1～4』 こどもくらぶ／編 岩崎書店
2012年12月～2013年3月 (2F:010)

図書館の歴史・役割・種類・活用法を、豊富な写真とともに解りやすく解説してくれます。

★もっと詳しく知りたければ…

『図書館年鑑 2018』 日本図書館協会図書館年鑑編集委員会／編集 日本図書館協会
2018年07月 (5F:010.59)

毎年刊行。図書館概況編と統計・資料編があり、概況では各県別・図書館の種類別に、年度内に起こった図書館に関する出来事や動向を掲載しています。

『図書館年報 2018』 枚方市立図書館／〔編〕 枚方市立中央図書館
2018年10月 (5F:H016.216)

2017（平成29）年度の枚方市立図書館の活動実績・財政・統計資料をまとめたものです。1988年以降、毎年発行しています。

『枚方市立図書館四十年誌』 枚方市立図書館／〔編〕 枚方市立中央図書館
2016年3月 (5F:H016.216)

平成25(2013)年市立図書館発足40年目、平成27(2015)年中央図書館開館10年目を記念して、平成元(1989)年(十五年誌発行)以降の年報に記述しきれない記録をまとめたものです。

★図書館のホームページには楽しいお知らせがいっぱい

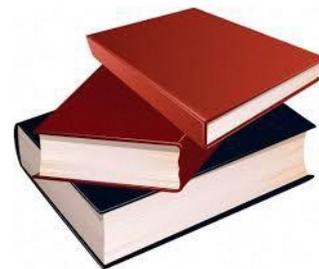
図書館では本を貸し出すだけでなく、いろんな催し物を開催しています。

枚方市のホームページから、「学び・文化・スポーツ」をクリックして「図書館」に入る。

または、https://www.city.hirakata.osaka.jp/soshiki/10-3-0-0-0_10.html へアクセス。

ぜひ「お気に入り」にご登録ください。

2. 図書館で調べものをしよう！



★次は実践です。図書館の資料を使って、調べ物をしてみましょう！
とはいえ、図書館には資料が多すぎて、何がどこにあるのやら…。
そういう時には「レファレンスサービス」を受けましょう！
聞きなれない言葉ですが、要するに「図書館司書にきけばいい！」ということです。

『**図書館のトリセツ**』 福本 友美子／著 講談社 2013年10月 (2F・4F:YA010)
「本と出会う」「本で調べる」という図書館の利用法について、丁寧に解説してあります。
調べ物のテーマの探し方は、子どもだけでなく、大人の発想を広げるのにも使えそうです。

『**まちの図書館でしらべる**』 『まちの図書館でしらべる』編集委員会／編 柏書房
2002年1月 (4F: 010)
図書館司書が集まって書いたものです。第1章には実際のレファレンス例がたくさん載っています。
第2章以降には図書館で調べ物をするテクニックが書かれています。

『**図書館徹底活用術**』 寺尾隆／監修 洋泉社 2017年2月 (菅原 015)
この本に書かれているテクニックをすべて使いこなせたら、図書館利用の達人と言えるのではないのでしょうか？
読めば早速図書館に行ってみて試してみたいような情報がいっぱいです。

3. 図書館の場面が出てくる本や映画

★図書館の場面が出てくる物語はたくさんあります！
それは図書館が、身近で誰もがイメージできる施設だけれど、
その実体は謎めいていて興味がそそられる場所だということ
ではないでしょうか。



『**図書館戦争**』 有川 浩／著 角川書店 2011年4月 (4F:BF 7リ)
『図書館内乱』『図書館危機』『図書館革命』の4巻が本編で、その後マンガ化、アニメ化、
テレビドラマ化もしています。枚方出身の岡田准一が出演した実写映画で知った方も多いはず。
SF恋愛小説の要素が強いですが、物語の舞台は2019年の日本で、「図書館の自由」問題を考
える現実的な内容でもあります。

『**おさがしの本は**』 門井 慶喜／著 光文社 2011年11月 (4F:BF 6ト)
毎日利用者の依頼を受けて、本を探し出すレファレンスを担当する和久山孝彦。だが、彼の勤
めるN市立図書館は、財政難から廃止の危機に陥っていた…。
著者は、寝屋川市在住の、『銀河鉄道の父』で第158回直木賞受賞作家です。

『**図書館ホスピタル**』 三萩 せんや／著 河出書房新社 2016年7月 (4F:F 6ハ)
元気だけが取り柄の悦子が、就活に100連敗後、ようやく採用されたのは、学生時代あまり縁の
なかった図書館。本の探し方もわからなかった新米図書館員が、持ち前の元気と明るさで業務を
一つ一つ覚え利用者に対応するうちに、それぞれ悩みを抱えて来館していた利用者にも笑顔と元
気が戻ってきます。

『**図書館につづく道**』 草谷桂子／著 子どもの未来社 2017年12月 (2F:F ㌶)

本を借りたり調べ物にとどまらず、人と人・人と本をゆるやかにつなぎ、人々の暮らしの中に様々な形で根をおろした図書館のお話です。簡単なレファレンスのお話も入った内容になっています。

『**図書館映画と映画文献**』 飯島 朋子／著 日本図書刊行会 2001年8月
(3F:778.04 イ)

映画の中で図書館の場面が描かれているものを「図書館映画」というそうです。この資料では1960年代から1999年までの図書館映画を、邦画・洋画取り混ぜて70篇、タイトルの50音順に紹介しています。例えば、1984年のアメリカ映画『ゴーストバスターズ』の頁では、「司書が書庫で納本している後ろで本が空中を移動したり、図書カードが宙に舞い上がったりする。ゴーストバスターズが調査に乗り込み、読書中のゴーストに話しかけると「シー」と言われる」と説明されています。

DVD 『**ゴーストバスターズ**』 (日本語字幕／英語字幕)

アイバン・ライトマン／監督 コロンビア 1984年 (3F:D933 ヌ)

上記の説明で映画がご覧になりたくなった方は、3FにDVDがあります。

ちなみに、1989年には『ゴーストバスターズ2』、2016年には『ゴーストバスターズ [2016]』が封切られましたが、いずれのDVDも所蔵しています。

DVD 『**天使のいる図書館**』 ウエダアツシ／監督 「天使のいる図書館」製作委員会
2017 (3F:DF テ)

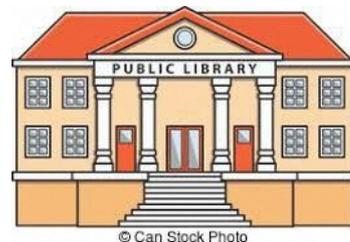
奈良県葛城地域のとある図書館に東京の大学を卒業して帰郷したさくらが入職します。人付き合いが下手な新米司書でしたが、レファレンスサービスを介して、人と人との心のつながりを築いていくという物語。ロケ地の自然の美しさも満喫できる映画です。

4. 世界にはいろいろな図書館があります

★映画の中に描かれている図書館と言えば、

ハリー・ポッターに出てくるホグワーツ魔法魔術学校の
図書館も印象的でしたね。

伝統の重みを感じられる絢爛豪華な図書館から、アニメの未来都市に出てきそうな電子図書館まで、色々な図書館を覗いてみましょう。



『**世界の図書館：美しい知の遺産**』 ジェームズ・W. P. キャンベル／著
河出書房新社 2014年10月 (4F:W012.02 キ)

古代メソポタミアの図書館の遺跡から、日本の電子書籍時代の図書館まで、時代ごとに章立てして紹介されており、図書館の歴史を知るにもよい資料です。

写真図版300点、掲載図書館188館は圧巻です。

『**世界図書館遺産**』 ジャック・ボセ／著 創元社 2018年5月 (4F:010.2 ㌶)

ヨーロッパを中心に世界の由緒ある図書館23館をたっぷりの写真で紹介してあります。

絢爛豪華であり、また厳かな雰囲気を持つ知の拠点となった世界の図書館を垣間見ることのできる一冊です。

『世界の不思議な図書館』 アレックス・ジョンソン／著 創元社 2016年4月
(4F:012.2シヨ)

こちらは、先の2点に比べるとコンパクトサイズの写真集。ラクダやゾウが本を運ぶ動物移動図書館や、電話ボックスや飲料自販機に本を収めた街角の小さな図書館、海岸の砂浜に並べられた書架やツリーハウスに置かれた図書（樹上図書館）など、ちょっと変わっているけれど利用者に愛されている図書館89館を紹介しています。

5. 図書館員になりたければ

★いろいろな図書館とそこを利用する人たち。本と人とを結びつけるのが図書館職員の仕事です。ご興味をお持ちの方は、以下の資料で調べてみてください。

『司書のお仕事』 大橋 崇行／著 勉誠出版 2018年4月 (4F:F材)

新人司書として働く双葉に待ち受けていたのは、蔵書目録の作成・本の受け入れ作業・イベント企画と、次から次へとやってくる「司書のお仕事」。新人司書の奮闘を通して、図書館のカウンターだけではない奥深い司書の仕事の様子がわかります。

『書店・図書館で働く人たち』 戸田 恭子／著 ペリカン社 2016年4月

(2F:YA366)

図書館の司書だけでなく、書店等のいろいろな職種についても説明してあります。実際に働く人たちのインタビューもあるので、より具体的なイメージがつかめるはずです。

『司書になるには』 森智彦／著 ペリカン社 2016年10月 (4F:013.1刊)

著者は現在、東海大学で司書課程を教える教授。公共図書館だけでなく学校図書館・大学図書館に勤める司書の仕事内容を詳しく説明。資格取得方法から就職の現状までを解説しています。

『みんなの図書館 2018年1月』 教育史料出版会 (3F)

図書館の月刊雑誌です。この号では「図書館で働く若者たち—Voice from 20代」という特集を組み、現在図書館に勤める若者の生の声を集めてあります。



〈お問合せ先〉

枚方市立中央図書館 参考資料室

☎573-1159 枚方市車塚2丁目1-1

MAIL : toshokan5-1@city.hirakata.osaka.jp

TEL : 050-7105-8151

FAX : 050-7105-8152

「パスファインダー」とは、「道 (path)」を「見つける人 (finder)」という意味で、知りたいことを調べるのにどのように資料を探したらよいかを示す手引きのことです。